

小菅村の地域づくりと 多摩川源流大学

NPO法人多摩源流こすげ事務局長
多摩川源流大学

石坂 真悟



小菅川最上流部 橋立地区の冬から春へ



自己紹介(1)

•石坂真悟(いしざか しんご)

- 1981年10月8日生 40歳
- 小菅村嘱託職員→2021年4月 フリー(NPO専属)
- 埼玉県さいたま市
- 東京農大 森林総合科学科2004年卒
- 登山、ランニング、体を動かすこと旅行
- 幼少期から登山やキャンプに触れることが多く、その影響で田舎暮らしに憧れる
- 2006年11月に小菅村に移住→2020年9月 隣町の大月市に移住
- 大月市より通勤(30分)



自己紹介(2)

- 気持ちは「半分村民、半分都会」
- 目指す暮らしは「Life Work Mix」
- 幸せな家族を増やし幸せな地域を作る



目次

1. 小菅村の概要(地理、特産物、人口など)
2. 村の公共施設について
3. 村づくりの取り組み
4. NPO法人多摩源流こすげ、多摩川源流大学



1. 小菅村の概要

(地理、特産物、人口など)



小菅村の位置



- ・多摩川の源流
- ・東西約14km 南北約7km
- ・総面積5,265ha(約1/3が東京都水源涵養林)







ワサビ



ソバの花



ヤマメ

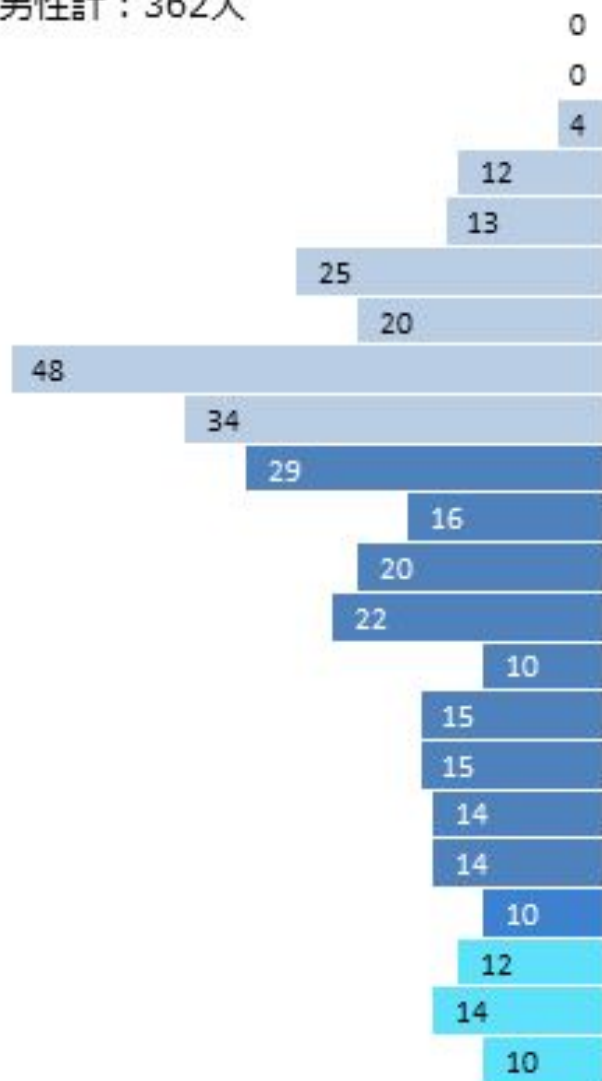


小菅村の人口

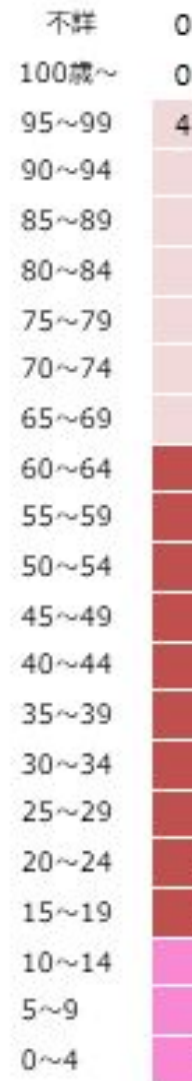


2020.1.1 人口構成 717名 高齢化率45.6%

男性計：362人



不詳



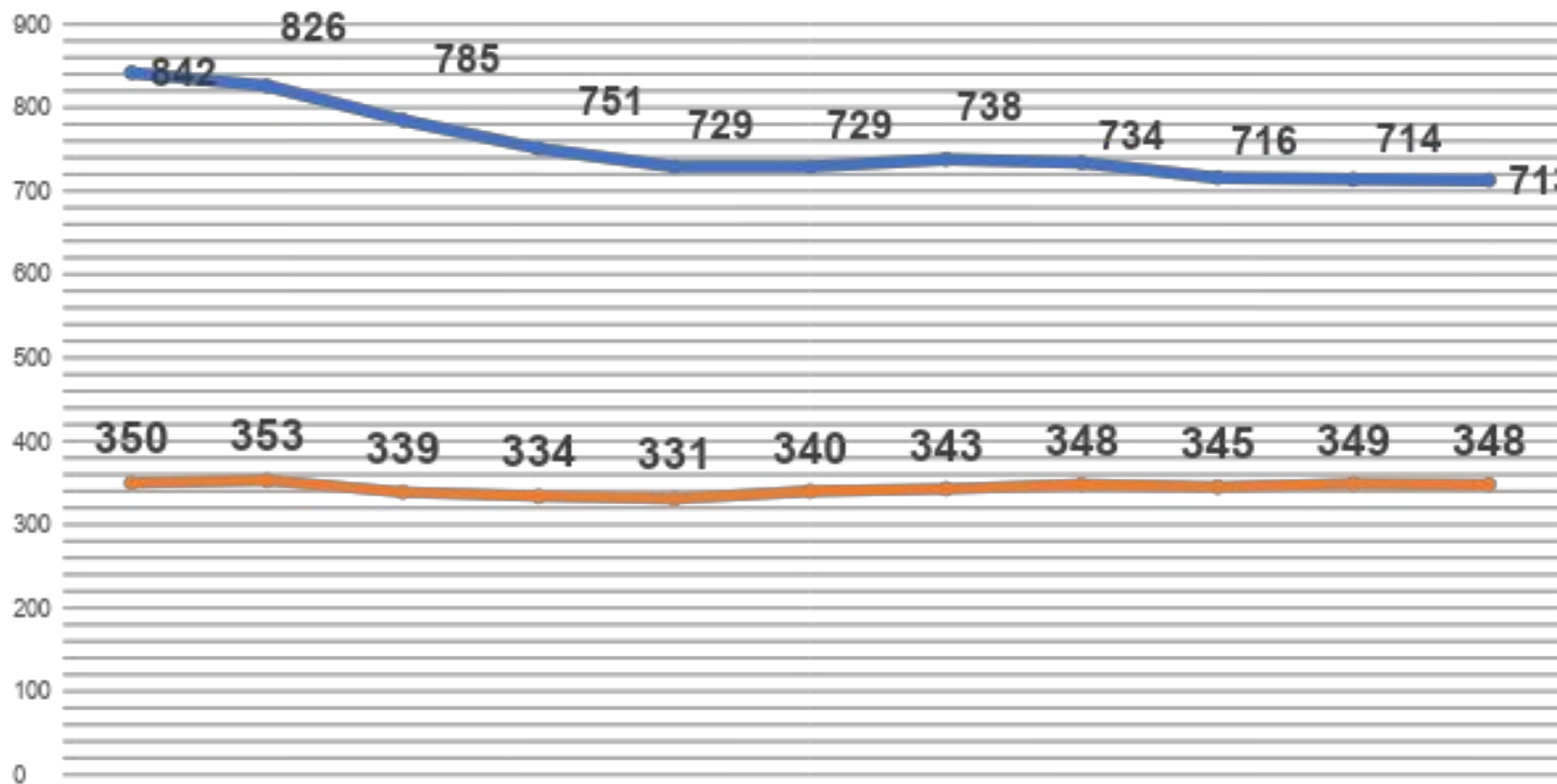
女性計：355人

住民基本台帳ベース

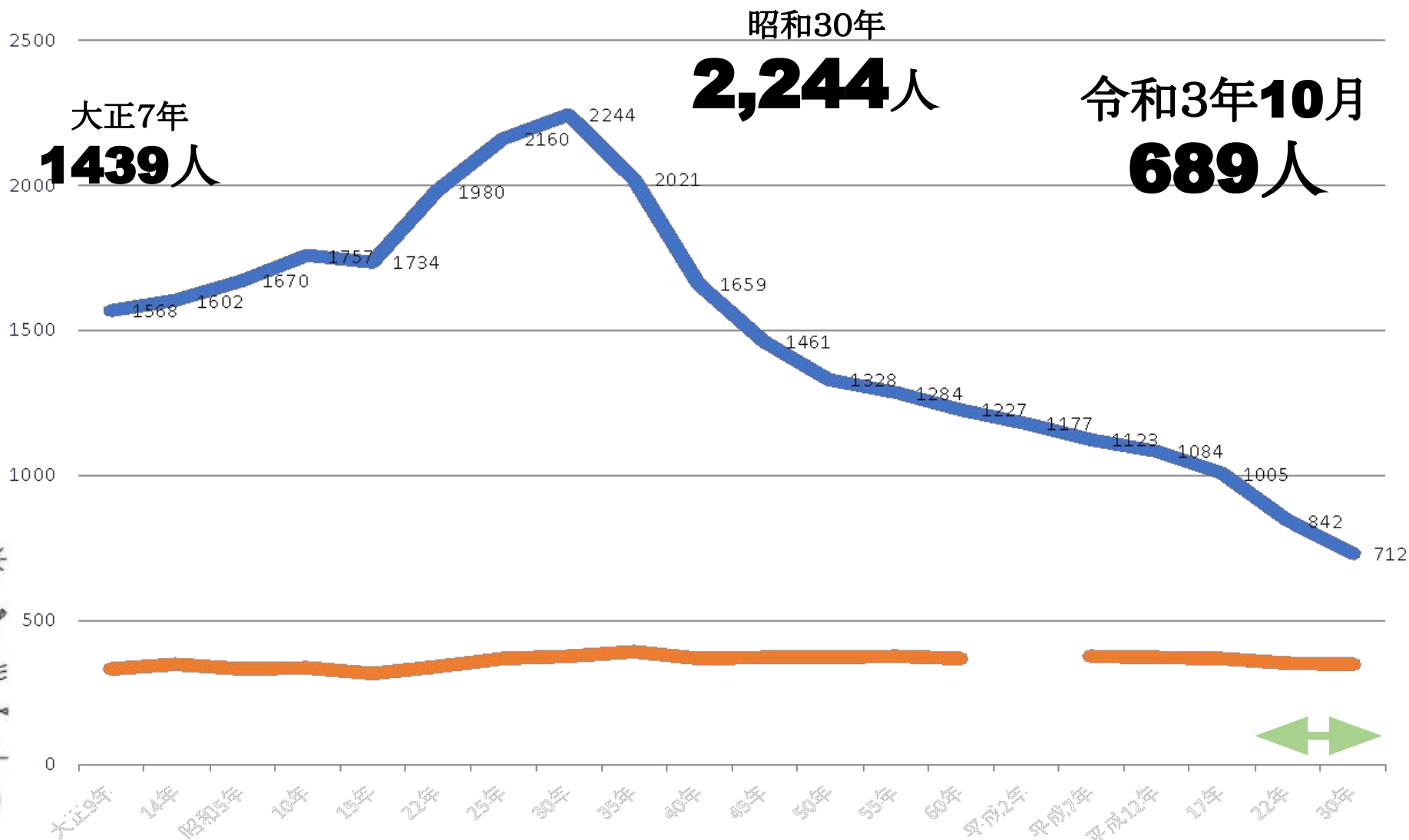
2010(平成22年)-2020(令和2年) 10年間の人口動態

平成22年
842人

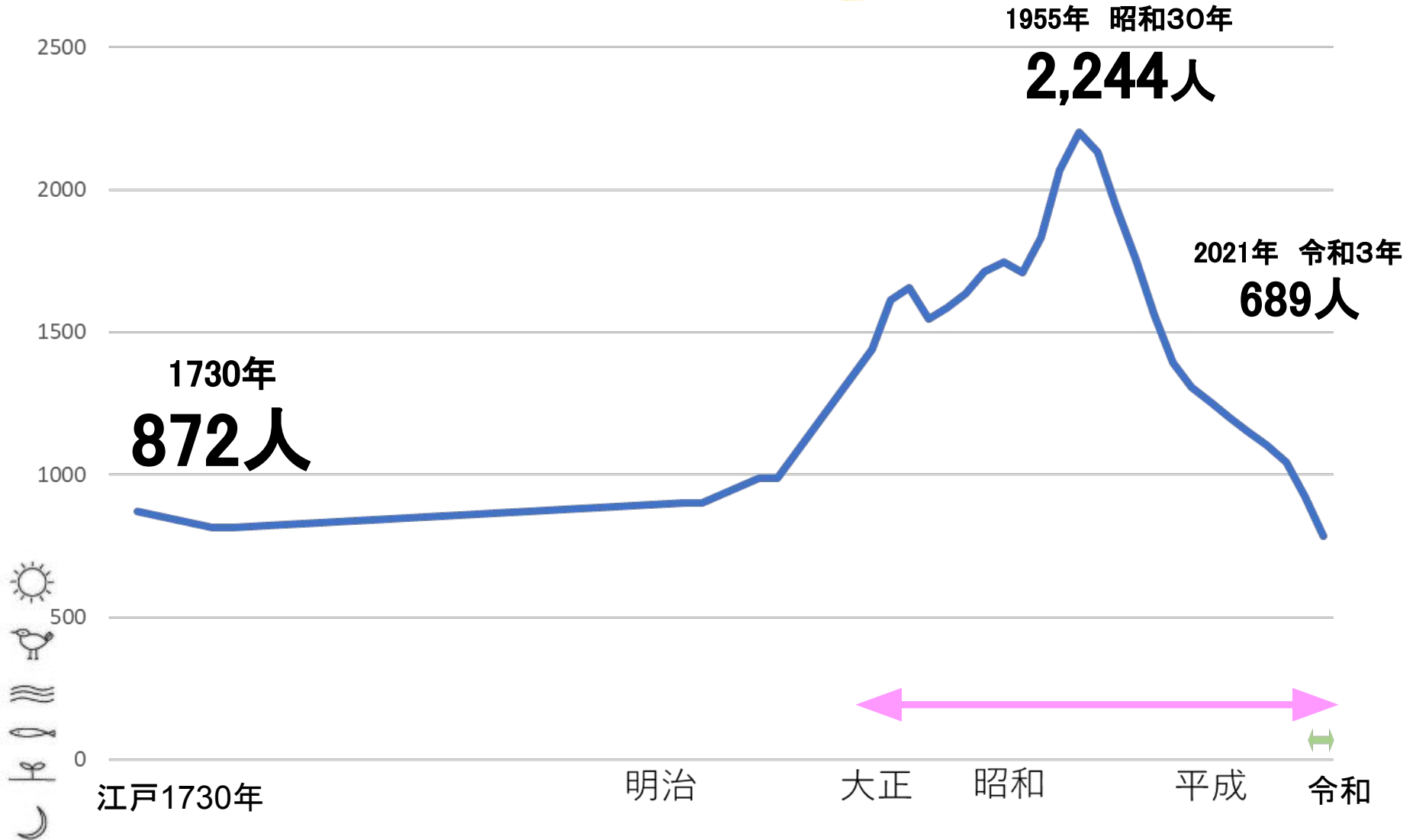
令和3年10月
689人



1918(大正7年)-2020(令和2年) 100年間の人口動態

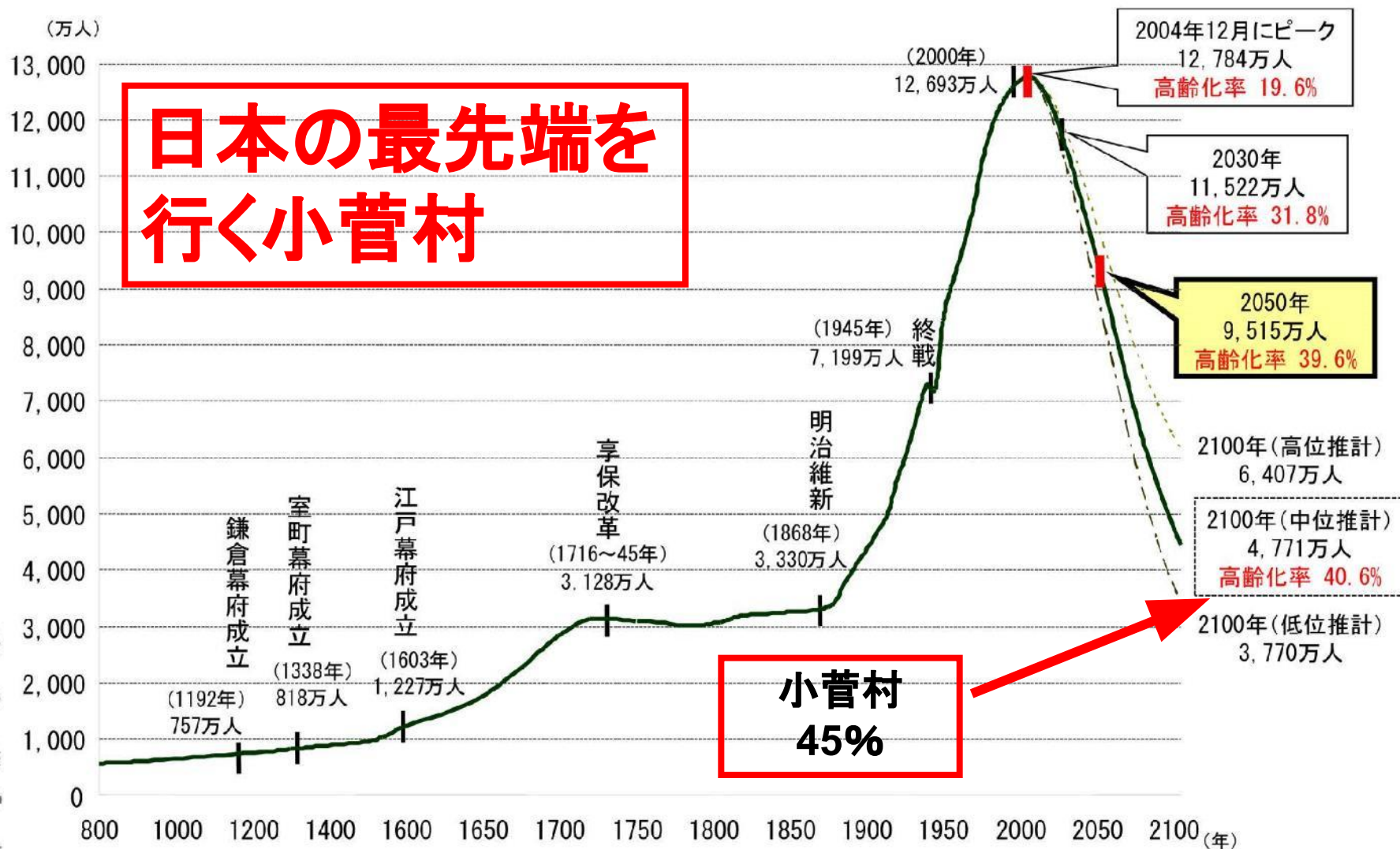


1730年-2020(令和2年) 約300年間の人口動態



我が国における総人口の長期的推移

日本の最先端を
行く小菅村



2. 村の公共施設について



小菅村立

小学校 **33名(17名)**

中学校 **15名(4名)**

※括弧内は山村留学



下水道事業開始 1982



村営住宅建設 1992



小菅の湯 1995



フォレストアドベンチャー・こすげ 2013



FOREST ADVENTURE
自然共生型アウトドアパーク・フォレストアドベンチャー

動画で体感！
▶ MOVIE ARCHIVE

Online Booking
▶ オンライン予約

click!

TOP	フォレストアドベンチャーとは？	パーク情報	よくある質問	ご予約	ENGLISH
-----	-----------------	-------	--------	-----	---------



FOREST ADVENTURE KOSUGE フォレストアドベンチャー・こすげ



フジ（山梨県南都留郡）

ターザニア（千葉県長生郡）

恩納（沖縄県国頭郡）

おおひら（栃木県下都賀郡）

スウィートグラスアドベンチャー
（群馬県吾妻郡）

SARUTOBI（静岡県熱海市初島）

小田原（神奈川県小田原市）

▶ 施設情報

▶ 営業日

▶ 料金表

▶ ご予約





国道139号線松姫トンネル開通 2014.11



道の駅こすげオープン 2015.3



注目を集めている道の駅こすげ

【3位】山梨県「こすげ」／83点／地図上の記号：C



〔画像のクリックで拡大表示〕

1日中楽しめる。近隣に温泉や、自然の地形を利用したアスレチック「フォレストアドベンチャー」がある。「小菅村特産のヤマメで作ったアンチョビをのせたピザは絶品の味」（ライターの平賀由希子氏）。登録年／2014年4月、温泉／無し、宿泊／無し。

道の駅 こすげ 源流レストラン



村内の主要な観光施設の経営を一本化

道の駅こすげ



小菅の湯



フォレスト
アドベンチャー・こすげ



株式会社 源
minamoto

新会社である

「株式会社 源」を設立。

3施設が連携することによる
売上、サービスの向上を図る。



2015.3 新庁舎完成



タイニーハウス 2016







ジビエ加工施設 2017



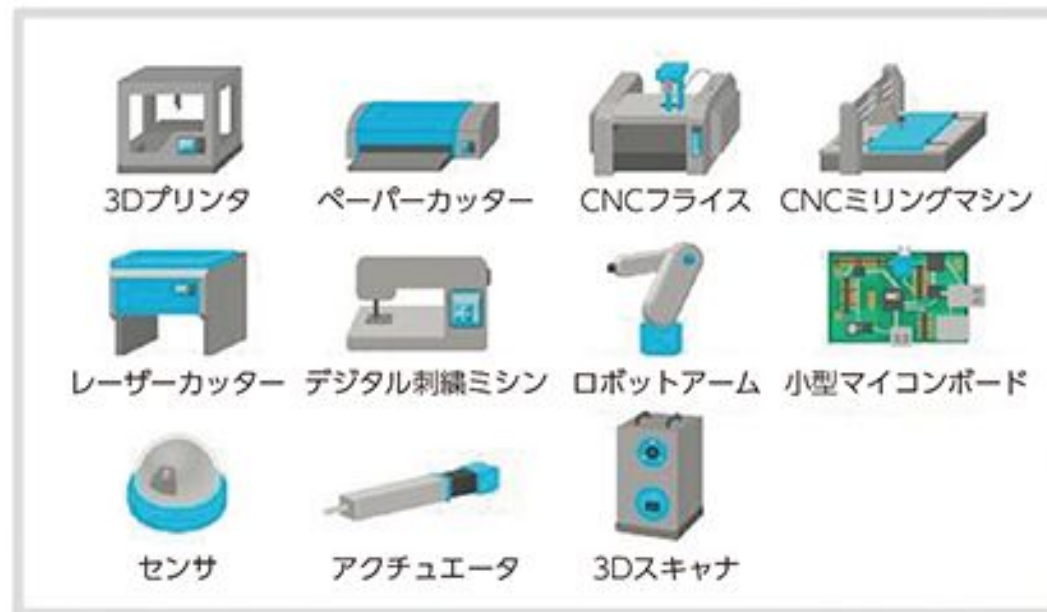
中央公民館 2018.5



1階 木工室

デジタルファブリケーション

デジタルデータをもとに創造物を制作する技術のことである。3Dスキャナーや3D CADなどの測定機械により、自分のアイデアや個人の身体データ等をデジタルデータ化した上で、そのようなデジタルデータを3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機械で読み込んで造形する







2階 図書室



3階 キッチン コアワーキングスペース



4階 講堂



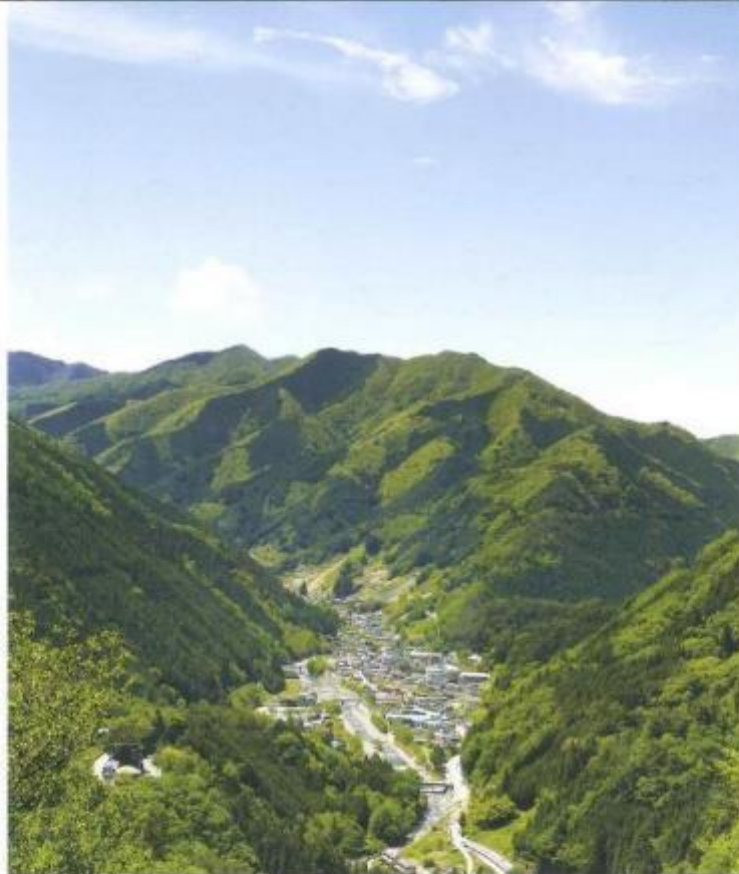
3. 村づくりの取り組み



多摩源流祭り 1987



2012



小菅村源流景観計画

～源流景観の新たな創造を目指して～

平成24年3月

山梨県小菅村





2014年から移住者が急増

■ 4年間で70人ほど移住（人口の約1割）

- ▷ 小菅村源流親子留学で家族で移住（教育目的）
- ▷ 単身世帯用のタイニーハウスを2年間で5棟建設



NIPPONIA 小菅 2019.8



REBORN

700 人の村を一つのホテルに

古民家ホテル NIPPONIA 源流小菅



<https://nipponia-kosuge.jp/>



NIPPONIA 崖の家(コテージ)8月7日

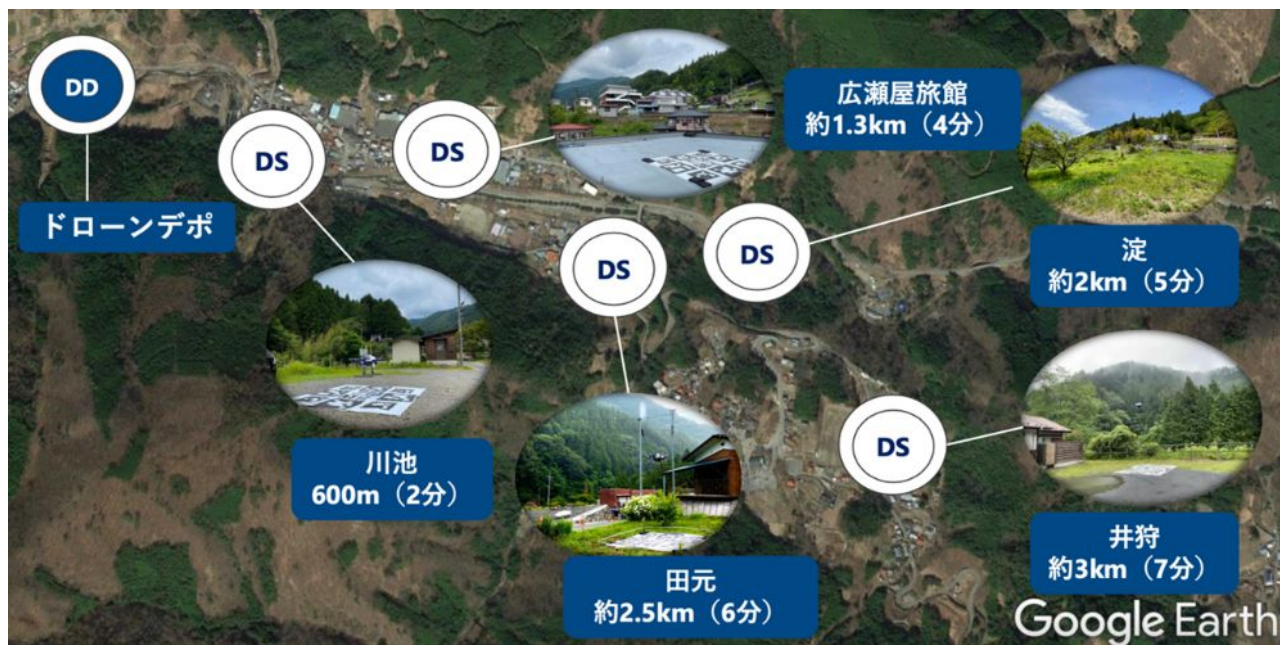




ドローンの試験輸送が始まりました



ドローン配送の実証実験



第5次総合計画

- 10年に1度作成される「村づくりの基本計画」
- スケジュール
 - 7-8月 村民アンケート
 - 8-9月 村民ワークショップ
 - 来年3月 第5次総合計画 策定

・皆さんからのご意見も
ぜひお願いします



第2部

4.NPOこすげ・源流大学 の活動



NPO法人多摩源流こすげ 2009



NPOこすげ

体験

- ・源流体験
- ・里山ツアー
- ・農業体験
- ・猟コース
- Etc...

多摩川源流大学 人材育成

- ・大学連携実習
- ・学生インターン
- ・協力隊受入れ
- ・保小中体験学習
- ・研修等受入れ

多摩川源流研究所 研究

- ・調査受入れ
- ・在来種保存
- ・郷土資料保管
- ・源流絵図普及
- ・文化保存記録

その他

- ・御用聞き(援農)
- ・商品開発
- ・企業連携



多摩川源流研究所 2001





源流×体験



多摩川源流大学



法政大学2017



中央大学2019.3

中央大学商学部と小菅村、丹波山村及び檜原村との 交流・連携に関する協定締結報告会





学生×体験





源流×学生



学生インターンの受入れ



地域おこし協力隊の受入れ



- 累計28名の受入れ(うち7名が現役)
- 任期終了11名中7名が定住(72%が定住)
- 途中で離脱した人はゼロ

小菅村の子ども×教育



保育所自然遊び事業





夏・冬休みの子どもの
居場所づくり

小菅村を知る

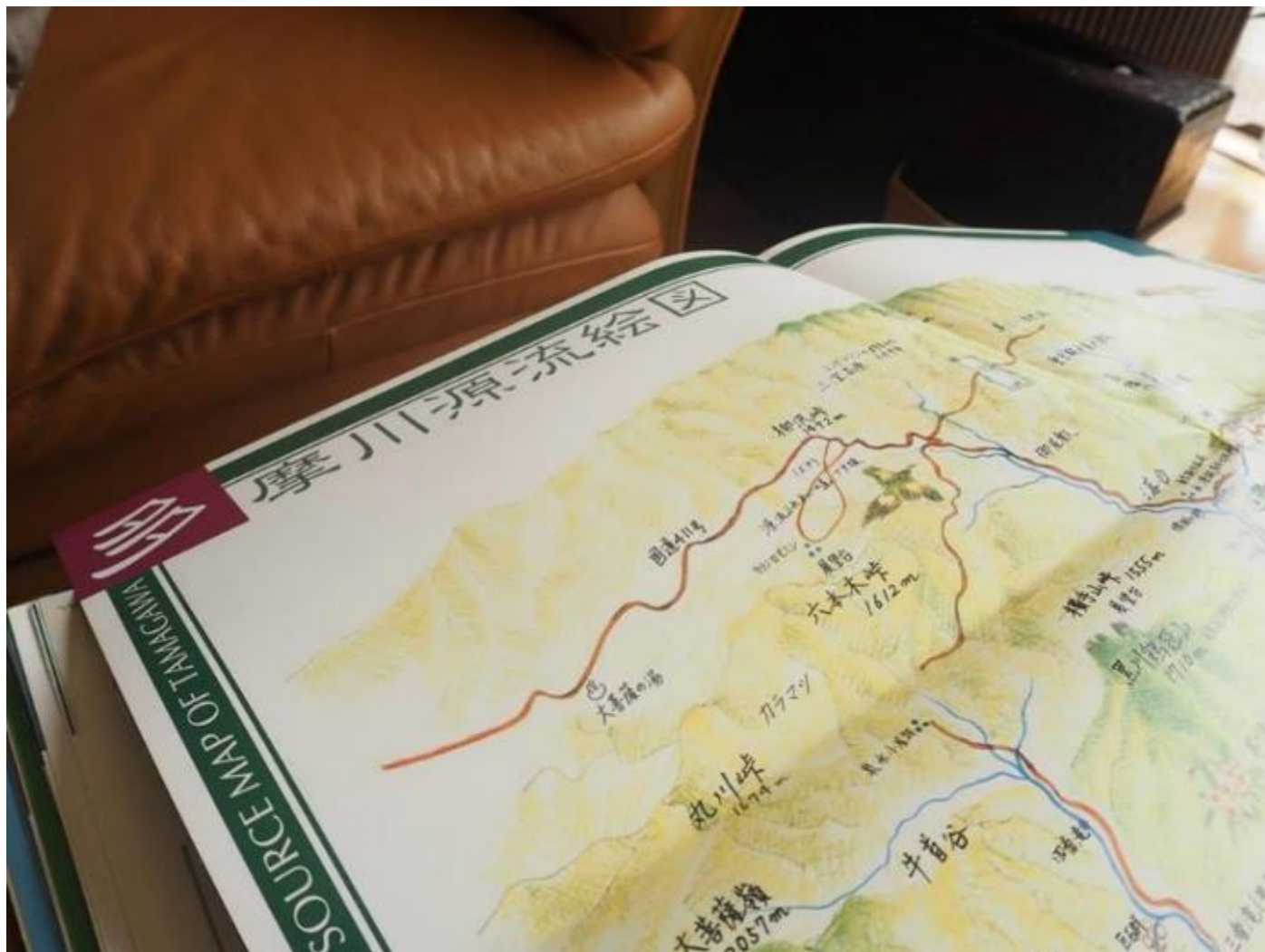
サマースクール事業



冬休みの子どもの居場所づくり
小菅村を知る

ウインタースクール事業

多摩川源流の調査・研究 郷土資料の保管、収集



(株)ホットマン×NPOこすげ オリジナルタオル

(課題)村のお土産、(資源)地域の仕事、(アイデア)流域の企業との連携



コンセプト

- ・タオル商品として認知度、品質の高い貴社の製品
- ・充実した子育て環境で移住者が増えた、そんな村のお母さん達が縫う(小菅の空気に包まれる)

高品質で

人に優しい空気が織り込まれたタオル

企業連携の支援・協働

2016年6月ランサーズ連携



2016年8月ビクセン連携



2017年3月CAMP IN CAR連携



企業と連携した事業



小菅村
源流キャンプ & YouTuber Academy

3・4日

参加費 無料

1日 源流キャンプ (3・4日)

2日 YouTuber Academy (3・4日)

参加費 70,000円 (3・4日)

参加費 35,000円 (3・4日)

1日目 源流キャンプ

2日目 YouTuber Academy

3日目 源流キャンプ

4日目 YouTuber Academy





知識だけでなく、
生きた知恵を次世代へ



源流大学

こすげ保・小・中学校

保: 自然あそび、森の学校
小: 総合学習、源流体験
中: 総合学習、村への提言

Closedプログラム

高校・大学生

連携協定大学の受入れ
調査研究協力
高校・大学生の受入れ
インターン

Closedプログラム

一般コース

学部(考・食・遊・創etc...)
募集型プログラムの開催
一般の方、源流で学びたい人など

Openプログラム

今で主で行っていた事業(継続分野)

新設

【講義組み立ての流れ】

- ・源流（現在小菅村のみ）体験を出発点にした講義を相談
- ↓
- ・講義内容/講義日程/料金/定員/ 最低開講者数を決定
- ↓
- ・募集ページを事務局で作成
- ↓
- ・募集開始/講師キュレーター/事務局にて告知開始
- ↓
- ・約30日程度告知後、最低開講者数を上回れば開講決定
- ↓
- ・申込者へ受講案内を送信

源流大 運営事務局

- ・NPO こすげ 5名
- ・外部事務局 運営に携わっていただく方
- ・各地で源流大学を広める方

講師・キュレーター

- （小菅の資源を活かして講座を作る、講義ができる方）
- ・料理人、農家、小菅ファン、村民など



応募



受講



卒業



〈運営・講義を組み立てることに興味がある人はキュレーターや運営事務局へ〉



4/10・11 源流大学 開校式





源流大学 水源の森再生PJ

【水源の森再生プロジェクト】#1 ～山の涵養力を育てる作業道のつくり方～



多摩川源流 — 山梨県小菅村

水源の森再生プロジェクト

#1～山の涵養力を育てる作業道のつくり方～

2021年6月26日(土)・27日(日)開催
講師：高田 宏臣氏 (NPO法人地球守)





高田宏臣

株式会社高田造園設計事務所代表、NPO法人地球守代表理事。東京農工大学農学部林学科卒業。1997年独立。2003~2005年日本庭園研究会幹事。2007年株式会社高田造園設計事務所設立。

土中環境の健全化、水と空気の健全な循環の視点から、住宅地、里山、奥山、保安林などの環境改善と再生の手法を提案、指導。大地の通気浸透性に配慮した伝統的な暮らしの知恵や土木造作の意義を広めている。



五感で食を学ぶ 地域の方から山菜を教えていただく



森林再生ボランティア2002～ 荒廃人工林の再生



水源の森再生 保水力のある森へ



人工林内の水源の石積み
かつては、ワサビが栽培できるほど
湧水があった



籠やザル、物干しなどで活用された竹
現在は高齢化と物資の購入により
住宅の裏山の竹も荒廃している



地域の資材は炭にして土壤へ



水源の森再生PJ #1

～山の涵養力を育てる作業道のづくり方～

2021年6月26・27日 参加者41名

◆講座の目的と概要◆

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけでなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたいと思えます。2021年から複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆第1回目「山の涵養力を育てる作業道のづくり方」◆

山と谷の地形の読み方、人工林を健康な多層混交林へと返還させるための第1歩を実地で学びました。人工林の森の中で作業するための道のつけ方ひとつで、環境を悪化させれば育ちません。山に水を浸透させ、豊かな森になるための歩道づくりをおこないました。また、下層植生の育っていない斜面に対し、パッチ状の炭き杭を打ち、雑草が生育できるマウンドを数か所造成しました。



技術指導「土中環境」著者 高田宏臣氏



上層植生が育つための土と根を絡ませたマウンドを林内に設置。中上層の植生の様に、等高線に沿って歩道を引く。歩道は水平に保つ、その後雨後から土壌面を保護するため落ち葉などで被覆。
中層植生の間に、徐々に林内へ光が差し込むように透す。乾燥材のため伐倒時に林床を必要以上に傷めない。敷上土壌が流れやすい場所には、根がみの土留めを行う。敷上土壌を積み上げただけでは、腐りやすいので、なるべく根は人サイズ(1.5m)くらいまで短くして処理

◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術や山の見方などは、高田氏の著書「土中環境」やNPO法人地球守が発行している「地球守の自然読本4」に詳しく紹介されております。ぜひ、ご興味のある方はご購入下さい。

お問合せ 源流大学 ☎0428-87-7055 ✉info@npkousuge.jp



主催/NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流大学 技術協力/株式会社高田造園設計事務所 NPO法人地球守 後援/小菅村役場

水源の森再生PJ #3

～環境改善資材づくり編 竹炭・穀殻燻炭・焼き杭を作る～

2021年9月19日 参加者26名

◆講座の目的と概要◆

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけでなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたいと思えます。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆資材づくり編 第1回「竹炭・穀殻燻炭・焼き杭を作る」◆

山林の環境改善では、炭や落葉を使うことで水や空気の通う土地になります。今回の講座では、10月間に実施する山林の環境改善にむけて、竹材と穀殻を燃やした炭や、木杭を焼いた焼き杭を作成しました。村内で生じた落ち葉や木材、竹材を環境改善の資材として活用し、水源の森の再生を行っていくことで、小菅村内での資源の循環を目指します。



次回は 12月4・5日開催

▼材料集めも村内から

手入れが行き届いていない山林に落ち葉や木材などをお集めし、資源が無駄にならないよう活用させていただきます。

▼炭で変える環境改善

炭には、小さなたくさん穴があり(多孔質)多くの微生物の住み家となります。炭を土壌に置くことで、微生物が住む「マンション」となり、木や落ち葉を分解し、地面に定着する助けになります。

また、炭や落ち葉を地中に混ぜることで、水や空気が通った地中に流れを作り出すこともできます。炭や山の環境改善にはとても効果的です

今回の講座では、身の回りの資源を活用して炭をつくる方法を学びました。竹炭一つでもいろいろな作り方があり、作る環境に応じて工夫できます。



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田氏の著書「土中環境」や、NPO法人地球守が発行している「地球守の自然読本」に紹介されております。

お問合せ 源流大学 ☎0428-87-7055 ✉info@npkousuge.jp



主催/NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流大学 技術協力/株式会社高田造園設計事務所 NPO法人地球守 後援/小菅村役場

源流域での体験学習を行うことで、その地域に係る住民と学生、また上下流域に暮らす人たちの交流を促し、お互いに無いものを補える流域全体の繋がりを、豊かな源流資源の活用を意識できる人材の育成、コミュニティづくりを図ります

目先ではなく100年後の日本の循環型社会を実現するための知恵を、着実に継承していきます。



これから源流大学は、今まで行ってきた「体験」を線でつなぎ
「学び」を生み出していきます。

その学び一つ一つを中心に、国籍、年齢、性別、地域を超えた
コミュニティをつくっていきます。

様々な人たちが交流をすることで、つくられたものは文化となり、
他の源流地域においての「問い」のヒントになるはずです。

あなたも一緒に、**生きた知恵を次世代へ**残していきましょう。



令和4年度 地域おこし協力隊 NPO法人多摩源流こすげ・源流大学スタッフ募集



詳しくは、小菅村役場HPをご覧ください！





NPOこすげメールマガジン

こすげむらの情報がまるわかり！
ダイレクトに村の最新情報お伝えします！

NPO

- ・体験プログラム情報
- ・イベント情報
- ・村の活動ブログ
- ・村での活動動画

道の駅

- ・物産館新商品情報
- ・源流レストラン情報
- ・温泉イベント情報
- ・フォレストアドベンチャー情報

その他

- ・村内季節のみどころ
- ・村内・出張イベント
- ・村内施設情報イベント
- ・おすすめスポットetc..

